

加藤 弘之樹さん

平成 25 年 2 次試験マスターコース S 受講

平成 26 年 2 次直前対策講座受講

平成 27 年 2 次試験マスターコース V 受講

私は、中小企業診断士の試験を 6 回(6 年)受験し、ようやく 2015 年(平成 27 年)に 2 次試験に合格しました。MMC の講座を最初から直前まで通しで受講したのは、この 6 年目がはじめてです。

講義での的確な解説、答練の添削とアドバイス、くどいほどに合格の鉄則に沿った指導などが、私の合格につながったと感じています。自分がやるべきことが明確になり、そしてそれは決して無理のないボリュームやレベルであり、ひたすら同じことを繰り返してトレーニングしてきたことの効果が本番の試験でも表れたのではないかと思います。

ストレート(1 年)で合格される方もいらっしゃる一方、何度もチャレンジされている方も多いと聞きますので、試験対策の経歴を時系列で記します。私の遠回り体験や考え方が、少しでもそのような方のお役に立てば幸いです。

【1 年目：平成 22 年 5 月～12 月】

私は入社 10 年が経過したとき、勤務先の研究開発部門から事業企画部門に異動となりました。異動後の上司は、経営・事業企画についての知識が乏しい私に対して、「仕事の努力は認めるけどもっと知識を広げたほうがいい」とアドバイスをしてくださって、大学のビジネススクールの受講や中小企業診断士への挑戦などを薦めていただきました。

そこで、知識を広げた結果が「資格」という形になる中小企業診断士について調べてみると、たくさんの科目が広く求められているものであること、そして 1 次試験の申込期限がまもなく終了する時期であることがわかりました。勉強の時間がほとんどありません。

そのため私は、①まずこの年はとにかく 1 次試験を受けて、合格ラインと自分の実力とのギャップを認識し、②その後 1 年かけてそのギャップを埋めて翌年(平成 23 年)に 1 次試験に合格する、ということを目指しました。

そして、中小企業診断士の試験勉強をすることなく平成 22 年 8 月に 1 次試験を受験し、自己採点をしたところ、合格ラインに 2 点足りない「418 点」でした。1 次試験の合格率は約 2 割。やはり簡単ではないなと思って、この先 1 年間の 1 次試験対策をどうしようかとのんびり考え始めました。

ところが、予期せぬことが起こります。9 月初旬に合格発表があり、いくつかは科目合格をしているはずなので念のため協会のホームページで科目合格者番号のリストを見たのですが、科目合格しているはずのどこにも私の番号はありません。おかしいなと思って全体の合格者番号リストを見ると、なぜか私の番号が載っていました。協会のページをあれこれ確認すると、1 科目が特に難しかったようで、この科目の受験者全員に 4 点を加点する措置がとられていることがわかりました。つまり私は、合格ラインの 420 点を超える「422 点」になっていたと思われます。

さて、そこで慌てました。てっきり1次試験に落ちたと思っていたので、2次試験の対策はおろか、どんな科目でどんな試験なのか、まるでわかっていませんでした。いろんな受験校の直前講座や模試も終わっています。仕方なく、書店で市販されている問題集を買って、それを1か月少々やってみました。しかし、そんな状態では受かるはずありませんでした。

(試験結果)

1次試験＝合格(7科目受験で3科目合格、合計点で合格ライン超え)

2次筆記試験＝BABC：総合B

【2年目：平成22年12月～平成23年12月】

1次試験に合格するという目標は、思いもよらない形で1年前倒しで実現してしまいました。すると、欲が出てきます。「この資格、取りたい！」と思うようになりました。インターネットでいくつかの受験校を探し、内容面、費用面を勘案して、MMCではないある受験校を選択し、説明会に出席の上、その学校に申し込みをしました。この年の目標は、2次試験に合格すること、これ一本でした。授業の内容はレベルが高く、多くのことを知識として学ばせていただきましたが、なかなか「それを答案に反映する」という形を身につけることができず、答練の得点も上昇・下降が激しく安定させることができませんでした。2次試験に不合格だった場合の翌年に備えた1次試験の保険受験もせず、2次に勝負をかけましたが、願いは叶いませんでした。

(試験結果)

1次試験＝受験せず

2次筆記試験＝ACBC：総合C

【3年目：平成23年12月～平成24年9月】

ほとんど準備できなかつた1年目より、ある程度がっちり準備してきた2年目の結果が下がっているのは、どういうことだろう？と、私は混乱してしまいました。ここではじめてMMCの説明会にも行ったのですが、1次からやり直しなのに2次の対策をやっても無駄に終わってしまうのではないかなど非常に消極的になってしまい、結局どの学校にも申し込まず、そしてロクに1次の勉強もしないまま、1次を受験しました。

しかし、1年目の1次合格は「まぐれ」であり、このような状態では当然受かるはずありません。無駄に1年を過ごしました。ただそれでも、苦手な経済学・経済政策で科目合格できたのが、後で功を奏します。

(試験結果)

1次試験＝不合格(7科目受験で3科目合格、合計点で合格ラインに届かず)

【4年目：平成24年12月～平成25年9月】

やるならやる、やらないならやらない。はっきりさせなければダメだ！と考え、もう一度MMCの説明会に行きました。そこで気づいたことは、単に知識を詰め込めばいいというわけでもなく、また地頭がよくないといけないというわけでもなく、合格のための鉄則があり、それをしっかりと身にしみこませることが大事だ、ということです。本当は前年も同じ説明を受けていたはずなのですが、そのとき思考が消極的だった私にはそのことを認識するに至

りませんでした。

私は、5月まで2次対策をしっかりとやって、その後1次対策にも取り組んで、一気に合格しよう！と考え、マスターコースSの土曜コースに申し込みました。マスターコースSは5月までです。集中して取り組んだつもりですが、やはり答練の得点の上下が激しく、安定して60点を取るにはまだまだ足りない状態のまま、5月が来てしまいました。それでも、1次に合格しないと2次はありません。その先は1次の経済学・経済政策を除く6科目において、なんとか知識として蓄えて1次をクリアし、MMCの2次直前対策講座にカムバックすることを目指しました。この作戦はおおむねうまくいったのですが、思いもよらない「足切り」という墓穴があり、カムバックに失敗しました。

(試験結果)

1次試験＝不合格(6科目受験、合計で合格ラインに達するも中小企業経営・中小企業政策で足切り)

【5年目：平成25年12月～平成26年12月】

この1年やってきたことが無駄になってしまったと、ずいぶん落ち込みました。ここはひとつ、初心に帰らねばと考えました。初年の1次合格は「まぐれ」であり、やはりきちんと勉強しなければならない、と思ったのです。そこで、過去2年の1次で科目合格をしている4科目のうち、得点を稼げそうな1科目を除いた3科目を「免除」申請することにし、残り4科目で240点を取ることをこの年の目標にしました。2年前に科目合格した経済学・経済政策を「免除」にすることができたのが大きかったです。また、特に財務・会計は2次試験にもつながるものであり、これを落としたり勝ち目はないと考え、集中して取り組みました。これまでとは違い、1次試験が終わるまでは2次試験の対策を一切しませんでした。

その結果、8月の1次試験後の自己採点で4科目240点(6割)を超え、2次試験の受験資格を得られそうであることがわかりました。

さて、ここでまた慌てました。前年5月以降1年以上、2次対策は何もしていないのです。そこでMMCに相談したところ、直前対策講座に入れていただけることになりました。たくさん答練を行う中で、少しずつ1年以上前の感覚を取り戻していくことができました。ただ、ブランクが大きかったためか、やはり安定して合格ラインを獲得するレベルには至りませんでした。一方で、事例4(財務・会計)には勉強時間の4分の3を割き、誰もが正答する問題は絶対に落とさないようにするつもりで準備をしました。このような状況の中、2次筆記試験の本番を迎えることとなりました。

その結果、万全の対策を組んだ事例4はAでしたが、残りのうち2つでCを出してしまい、不合格でした。

(試験結果)

1次試験＝合格(4科目受験、合計点で合格ライン超え)

2次筆記試験＝C A C A:総合B

【6年目：平成26年12月～平成27年12月】

1次試験に合格した状態で迎えるのは、2年目に続き2度目です。多年度受験生になってし

まっており、もうこの年で絶対に決めたい！と思い、これから1年どうするべきかを考えました。私としての結論は、次のとおりです。

- ・MMCにフルで通い、「安定して60点超えを続けられる」ようになることを目指す(マスターコースVの土曜コースに申し込みました)。
- ・合格することにこだわる。逆に言えば、受かればよいので、過度に高尚な解答を自分に求めない。
- ・自分には限界があるので、できないことはやらず、切り捨てる。
- ・あれこれ手を出しても迷うだけ。だからMMCにこだわり、MMC以外のことはやらない。他流試合(他校の模試受験)もしない。
- ・平成27年の1次試験は一応受験する。ただし事前の対策勉強はしない。

そして、これまでの受験勉強を通じて知り合った方々との飲み会(忘年会)で、特に「MMCで60点以上を取り続けられるようになる」ことを私は誓いました。

講座の答練では、MMCの4つの鉄則をできるだけ意識しました。自分に足りないところはMMCの先生方から毎回アドバイスをいただき、とにかく同じ失敗をしないようにすることに注力しました(それでも同じ失敗を繰り返していましたが)。MMCの講座では毎回多くの先生方がいらっしゃって、答練のアドバイスをしてくださる先生は毎回異なります。しかし、それぞれの先生の「色」はあるものの、4つの鉄則についてはいつでもどの先生でもブレることはなく同じアドバイスでした。

そしてもう一つ、大事なことは、「平常心」「いつもどおり」ということでした。答練でも模試でも本番でも、いつもやっていることをいつもやっているようにすること、言い方を変えると、解答をがんばってひねり出すのではなくいつも作っているのと同じ解答を答案用紙に「置いてくる」ことです。このことも、多くの答練を繰り返す中で、徐々にできるようになっていきました。

この年、保険で1次を受験したのですが、結果は惨敗。「背水の陣、あとがなくなってしまった…」と焦る私に、杉森先生は、「そんなことは考えなくていい。2次の準備を今まで通りちゃんとやって、2次試験の結果が出てから今後のことを考えよう」と言ってくださって、落ち着きを取り戻すことができました。

その後2次試験までの間は、2次試験のことだけを考えました。直前対策講座と2回の模試で取り組む計20回の事例では、そのほとんどで60点以上を取れるようになっていました。

また、自分としての「いつもどおり」にとことんこだわりました。直前対策講座のあと、本番の前に2回ある受講生向けの「直前スパーリング」では、シャープペン、消しゴム、定規、電卓、時計(これらの予備も含む)などの道具にはじまり、持ち込む飲料、起床時刻、靴、着る服やズボン(靴下やアンダーウェアも!)、かばん、お守り、前日朝に爪を切ること(つい手に力が入ってしまい爪が長いと指が痛くなるため)…などなど、自分としての本番仕様を決めて実践しました。

本番の1週間前、試験会場である早稲田大学まで行き、経路はもちろんのこと、当日早く着いて待機する場所、試験後再現答案を作成する場所(ともに大学目の前のマクドナルド)、飲料や昼食の調達先(ローソン)なども現地確認してきました。

試験前日、中居先生から、「いつも通りやればだいじょうぶですから」というメールをいただきました。また当日は試験会場への道の途中にいてくださった川橋先生から、「いつも

やってきたことだけをやってきてください」という最後のアドバイスをいただきました。

試験会場には、1次を突破してきた多くの優秀そうな受験生の方々がいらっしゃいましたが、不思議と焦ることはありませんでした。今までにみたことのないパターンの問題もありましたが、それでも「みんなこれ見て困ってるだろうな...」と思っただけで、正しい答えが書けたかどうかは別ですが特に慌てることなく対応できました。そして、どの科目も時間配分で失敗することもなく、最後まで落ち着いてやり切ることができました。試験後、予定どおり目の前のマクドナルドに行き、持参していたパソコンで再現答案を作り、MMCに送信してから、おいしいお酒を飲みに出かけました。

試験本番1週間後、解答速報会に参加しました。MMCの模範解答を見ると、「これを書けなかった」「あれが思いつかなかった」など、自分の失敗がいくつも出てきて不安になりました。その不安は時間とともに増していき、合格発表の直前には「これはもう絶対ダメだな」と思っていました。

合格発表は、12月11日金曜日でした。仕事の合間に協会のホームページを見て確認すると...自分の番号が掲載されていました。つい職場でガッツポーズをして喜んでしまいましたが、これまで応援してくれていた職場の上司や同僚も一緒になって喜んでくれたことが、とてもうれしかったです。

午後、MMCに合格の報告メールをしたところ、中居先生からお電話をいただき、「ほんとはよかったね(そして合格の連絡が遅いよ!)」と労ってくださいました。

その後の口述対策セミナーも、私にとっては有効でした。口述試験はほぼ全員が合格するとはいえ、どのような試験なのかかわからないのは大変不安でした。セミナーでは単なる想定Q&Aのみならず、試験の流れ、いざというときの対処法など、心の準備をしておくには十分なアドバイスをいただいたので、口述試験の当日も安心して臨むことができました。

(試験結果)

1次試験＝科目合格(7科目受験で2科目合格、合計点で合格ラインに届かず)

2次筆記試験＝合格

【MMCの先生方へ】

余計なことをそぎ落としたわかりやすい講義、的を射た答案添削とアドバイス、そして「その調子で」「がんばりすぎないように」という伴走型の親身な支援。どれもが私にとって重要な支えとなりました。6年目にしてはじめて、1年間通しでMMCのカリキュラムを受講し、合格することができました。ありがとうございました。

【今後について】

会社の業務も忙しいのですが、なんとか合間をぬって実務補習を受け、できるだけ早期に診断士登録をしたいと思います。登録したら、経営者の方々と同じ目線で、同じ立場になったつもりで、いつも寄り添って、お困りごとの解決に貢献できる診断士になりたいと考えています。

【これから中小企業診断士試験合格を目指す方へ】

この2次筆記試験は、決して知識量を競うものではありません。実際、必要な知識は1次

試験よりはるかに少ないのではないのでしょうか。

一方必要なのは文章力で、①主語と述語が正しく明確であること、②因果関係が正しく明確であること、③読みやすいこと、④題意に忠実であること、⑤的確なキーワードが使われていること、などであると思います。このように並べると簡単で当然のことのように見えますが、自分ではなく他人から見てもそうである文章を限られた時間と文字数で書くことは、決して簡単ではありません。

独学でこれらを養うことができる方もいらっしゃると思いますが、MMCの先生方にアドバイスをいただきながらそのスキルを高めていくのは、特にお仕事などで忙しい方にとって効果的、効率的にレベルを高めるための良い方法だと感じます。MMCではひたすら同じことを繰り返します。MMC流の型を1年で作れば、ストレート合格も十分可能だと思いますので、ぜひチャレンジしてみてください。